

平成 27 年度第 2 回（物理学・化学・生物学）分野連携グループ合同委員会議事概要
学系別 F D / I C T 活用研究委員会（物理学・化学）
サイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会（生物学グループ）

- I. 日 時：平成 27 年 11 月 19 日(木)10：30～12：30
II. 場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）7 階 妙高
III. 出席者：物理学 穴田委員、徐委員、太田アドバイザー
化学 堀合委員長、及川副委員長、幅田委員、庄野委員、武岡委員
生物学 西村委員、佐野委員、西村委員
事務局 井端事務局長、森下、平田

III. 議事概要

1. 出席委員の紹介と座長の担当者確認

委員会開催にあたり、物理・化・生物分野の各委員の自己紹介が行われ、進行役（座長）を物理学の及川副委員長に担当いただくことにした。

2. 分野連携による対話集会の開催要項の検討

前回の資料検討を踏まえて、資料①により、分野連携による対話集会の目的及び開催方針を確認し、対話集会の進め方と開催要項を検討した。

(1) 意見交換のテーマについて

前回の検討を踏まえて意見交換のテーマについて検討の結果、知識の定着・確認、知識の活用・創造に効果的なアクティブ・ラーニングの在り方及び組織的に推進していくための教学マネジメントの工夫について、下記のテーマで意見交換を行うことにした。

<アクティブ・ラーニング>

- ① 初年次教育におけるアクティブ・ラーニングの工夫
- ② 知識の定着、活用、創造に向けたアクティブ・ラーニングの工夫
- ③ アクティブ・ラーニングの評価

<教学マネジメント>

- ① アクティブ・ラーニング授業設計のための組織的取組み
- ② 教養教育と専門教育の連携について
- ③ 学生によるファシリテータの導入と養成などの体制

(2) 話題提供の内容、話題提供者について

意見交換に向けた話題提供として以下の 3 件の話題提供を行うことにした。

- ① アクティブ・ラーニング形式による初年次教育の効果と課題
西村 靖史 氏（別府大学 文学部）
- ② 知識の定着、活用を目指したアクティブ・ラーニングの提案
及川 義道 氏（東海大学 工学部）
- ③ 上級学年生による教え合い・学び合い学修の導入と効果・課題
寺田 貢 氏（福岡大学 理学部）

(3) 開催日程・場所について

- ① 開催日時 平成 27 年 12 月 28 日（日）14：00～17：00
- ② 開催場所 私学会館（アルカディア市ヶ谷）
- ③ 参加者 国・公・私立大学野教員及び教育支援に関係する職員

2. 次回日程

次回委員会は、対話集会とし、平成 27 年 12 月 28 日（日）とた。

13：00～14：00 役割分担確認と事前打合せ会

14：00～17：00 対話集会

公益社団法人 私立大学情報教育協会 物理・化学・生物学グループ 分野連携アクティブ・ラーニング対話集会 開催要項

1. 開催の目的

教育の質的転換に求められる最大の課題として、学生の学力問題以上に教員による一方向的な授業から学生の主体性を引き出し、伸ばす授業に如何に換えることができるかが問われています。これまでの知識伝達型授業だけでは限界があります。自ら問題を発見し、解を見出し実践できる力を育む能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が不可欠です。能動的学修は学生の主体性を前提としますので、本気で学びに立ち向かう「気づき」を働きかける組織的な教育プログラムの構築が望まれます。

そこで、未来を背負っていく学生に最良の学びの場を提供し、教育の質保証を目指すために関連分野を連携する中でアクティブ・ラーニングの授業方法と評価、授業環境と授業支援組織、教員の教育指導能力の開発、教学マネジメントの在り方などについて多くの教員の方々と理解を共有するとともに、多面的に研究し、実践されることが期待されています。

2. 対話集会のねらい

対話を通じて課題を発見し、課題解決に向けた学びを主体的・協働的・創造的に展開していくアクティブ・ラーニングの手法とそれを実現していくための授業運営の工夫と組織的に推進していくため教学マネジメントの工夫について理解を共有します。

3. プログラム

(1) 開催趣旨の説明

(2) アクティブ・ラーニングの話題提供

① アクティブ・ラーニング形式による初年次教育の効果と課題

西村 靖史 氏（別府大学 文学部）

② 知識の定着、活用を目指したアクティブ・ラーニングの提案

及川 義道 氏（東海大学 工学部）

③ 上級学年生による教え合い・学び合い学修の導入と効果・課題

寺田 貢 氏（福岡大学 理学部）

(4) 意見交換

知識の定着・確認、知識の活用・創造に効果的なアクティブ・ラーニングの在り方及び組織的に推進していくための教学マネジメントの工夫について、下記のテーマで意見交換を行います。

<アクティブ・ラーニング>

① 初年次教育におけるアクティブ・ラーニングの工夫

② 知識の定着、活用、創造に向けたアクティブ・ラーニングの工夫

③ アクティブ・ラーニングの評価

<教学マネジメント>

① アクティブ・ラーニング授業設計のための組織的取り組み

- ② 教養教育と専門教育の連携について
- ③ 学生によるファシリテータの導入と養成などの体制

(5) 課題整理とまとめ

4. 参加対象者：国・公・私立大学の教員及び教育支援に関係する職員
5. 開催日時：平成 27 年 12 月 27 日（日）14：00～17：00
6. 会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）6 階 阿蘇
東京都千代田区九段北 4-2-25 案内図 <http://www.arcadia-jp.org/access.ht>
7. 定員：100 名（先着順で受け付けます）
8. 参加費：無料
9. 参加にあたって

本協会のビデオ・オンデマンド配信事業（有料）は利用申し込みが必要です。大学で利用申し込みされているかご確認下さい。なお、参加されていない大学は参加いただくか、下記の講演資料をご一読下さい。

ビデオ・オンデマンド配信事業のご案内 <http://www.juce.jp/ondemand/>

大学での利用申込確認・視聴方法について <http://www.juce.jp/senmon/ondemand/>

- (1) 主体性を引き出すための初年次教育について、事前に本協会ビデオ・オンデマンド配信事業の「主体性を育む授業とは」安西祐一郎氏の映像資料を事前にご覧願います。

① 安西氏の講演資料	http://www.juce.jp/ondemand/
② 産学連携 PBL 実践報告の関連資料(ベネット教育総合研究所)	http://www.juce.jp/senmon/active/

- (2) アクティブ・ラーニングと教学マネジメントへの取組みについて理解を共有するため、併せて以下の映像及び資料を事前にご覧願います。

① 本協会の機関誌「アクティブ・ラーニングとはなにか」 (長崎大学：山地弘起氏)	http://www.juce.jp/senmon/active/
② 本協会の機関誌「反転授業を組み合わせたアクティブ・ラーニングの取り組み」(山梨大学：森澤正之氏)	
③ オンデマンド「スクリーンキャストシステムによる講義ネット配信を用いた工学教育における反転授業の試み」 (山梨大学：森澤正之氏)	http://www.juce.jp/ondemand/
④ オンデマンド 12 月 1 日から配信開始	
※ 「アクティブ・ラーニングの体系化と教員の教育力養成、学修プロセス・成果の可視化を目指した改革戦略」 (玉川大学：稲葉興己氏)	
※ 「教学マネジメント体制構築の試み」 (横浜国立大学：梅澤修氏)	

10. 資料について

当日は資料の配布はいたしませんので、必要な資料は各自印刷の上ご持参ください。

なお、話題提供の資料は開催の 3 日前を目途に以下の URL に掲載します。

<http://www.juce.jp/senmon/active/>

11. その他

話題提供と意見交換の様子（意見交換は背面からの遠景）を個人情報に配慮して収録し、映像は編集後に加盟校に限定してネット上で動画配信します。

また、意見交換による課題の整理は文章で本協会 Web サイトに掲載する予定にしております。

12. 参加申込について

参加される方は、別紙の申込書に記入の上、FAX またはメールにて 12 月 23 日（水）までにお申し込み下さい。

公益社団法人 私立大学情報教育協会
物理・化学・生物学グループ
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会 参加申込書

※ 必要事項を記入の上、FAX (03-3261-5473) またはメール (bbsphysics@juce.jp) にて12月25日(金)までにお申し込みください。

- ・ご記入いただいた個人情報は、本協会の事務連絡及び委員会活動の案内に限定して利用させていただきます。
- ・データベース管理作業の外部委託の際には目的外の利用や情報の流出がないよう、十分留意いたします。

『参加者記入欄』

※ できるだけ詳しくご記入下さい。後日、収録ビデオ配信のご案内や今後の活動のご案内をさせていただきます。

ふりがな ()

氏名： _____

大学名： _____

所属・役職： _____

E-Mail： _____

以上